

2013 年度 The 22<sup>nd</sup> International Symposium and Book Fair on English Teaching  
派遣報告書

1. 派遣者情報	氏名(所属・ 職位)	小林敏彦 (小樽商科大学大学院商学研究科・教授)		
	JACET での 役職・支部	国際交流委員 北海道支部		
2. 派遣 先学会 概要(国 際交流委 員会で記 入)	学会名・会員 数・締結年	ETA-ROC 800 名 2013 年		
	会長	Leung, Yiu Nam		
	国際交流窓 口	Andy Leung (National Ilan University)		
3. 派遣先大 会 概要	大会名	The 22 <sup>nd</sup> International Symposium and Book Fair on English Teaching		
	テーマ	Motivating Students to Learn English: Problems and Solutions		
	日時	2013 年 11 月 8~10 日		
	会場	中華民国台北市 台湾劍潭海外青年活動中心		
	発表件数	223 件		
	一般参加者 参加費	NT\$2000		
4. JACET 派遣者として の業務(発表以外、 JACET からの派遣者とし て依頼を受けたこと、行っ たことなど。)		<p>1、日本、中華民国、韓国、フィリピン、タイのそれぞれ代表5名からなるパネルディスカッション(トピック: Dealing with Motivation in Diverse Contexts)にスピーカーとして参加し、英語学習のモチベーションに関して私見を述べ、質疑応答を行った。</p> <p>2、PAC のビジネス・ランチ・ミーティングに参加した。</p> <p>3、二日目(金曜日)夜に懇親会に JACET 代表として参加した。</p>		
5. 本人発表 報告	題目	More Colloquial English Grammar Should be Taught in English Classrooms		
	発表枠・時間	30 分	論文提出の有 無	□有り ■ 無し
	反応等	聴衆の数は30名前後。笑いや驚き、同意などの肯定的な反応が時折あり、3つの質問を受け回答した。発表後も複数からの質問やコメントをいただき、名刺交換を行った。		
6. 聴講した	題目	Developing Context-Specific English Programs		
	発表者	Morgan, Anne-Marie (The University of New England, Australia)		

<b>主な講演・発表 (1～2 例)</b>	<b>概要</b>	<p>ワークショップの形式に近く、問題提起を行い、聴衆がペアワークをして、希望者が発言し、全体のインターアクションを起こす形式が計5回繰り返された。発言者は全員英語の母語話者と思われる方々であった。World Englishes にも触れたいへん有意義な発表であった。</p>
	<b>題目</b>	<p>Revisiting Authenticity for English Teaching and Learning</p>
	<b>発表者</b>	<p>Lee Jun-an(李金安)</p>
	<b>概要</b>	<p>英語学習のモチベーションを高めるにはオーセンティシティ(真正性)が重要であることを主張し、text / task / classroom・context / learner の4つの領域の真正性について、それぞれ具体的な例を用いて説明した。パワーポイントを使わず、ハンドアウトだけの発表であったが、実践例を多く紹介し、非常にわかりやすい発表であった。</p>
<b>7. 所感 (780字 程度)</b>  <b>大会全体の感想、共同研究の可能性、その他の国際交流活動の提案など</b>	<p>JACET 派遣研究者として、初めて海外の大会に参加させていただいた。大会会場の Chientan Youth Activity Center は台北市北部に位置し、教室と宿泊施設を有するで、発表者にとって非常に利便性が高く、快適であった。大会では発表用に10教室が確保されており、全体として非常によく運営され、学術的レベルも高く、selected papers も冊子とCDで参加者に配布され、内容も充実していた。大会テーマに合わせて、モチベーションや学習ストラテジーに関する縦断・横断的実証研究の報告や学習者のモチベーションを高め、維持するための、ネットの活用や自律的学習を支援する仕組みを構築する手法に関する発表が目立った。</p> <p>大会参加者の大半が地元の教員の方々と、教員や研究者、教科書の出版社関係者も多数見られた。日本人の参加者は10名程度、その他、韓国、フィリピン、タイ、香港、オーストラリア、アメリカ、イギリスからの参加もあり、毎年参加し交流を維持している方々が少なくないようだった。</p> <p>私個人は、3日間の開催中2日目のみ参加したが、午前5か国代表者からなるパネルディスカッションでパネリストを務め、さらに午後に研究発表を行った。ランチタイムには、PAC の会合に参加し、時間の合間を見計らって7件の研究発表を聞いた。また、学生アシスタントも大変礼儀正しく有能であった。</p> <p>JACET と縁の深い研究者の多くの方々と挨拶を受け、また JACET に対する感謝の言葉や思い出を聞かせていただいた。また、諸外国の英語教員の方々と教育手法や学校の運営、予算や職場の人間関係などさまざま意見交換を行う機会を得て、アジアの英語教育者として共有できる要素が非常に多いことを再確認することができた。今後、共通の問題をテーマに交流する機会を一層増やしていくことが望ましいと思われる。</p>	